

問1 室町幕府の第3代将軍であり、約60年間にわたって続いていた南北朝の分裂を1392年に終わらせ、国内の統一を成し遂げた人物は誰ですか。

(2015年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 足利尊氏 | 2. 足利義満 | 3. 足利義昭 | 4. 足利義政 |
|---------|---------|---------|---------|

問2 室町時代、有力な農民たちが中心となって結成し、村の掟の制定や用水の管理などを自律的に行った自治組織を何といいますか。

(2022年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|------|------|--------|
| 1. 五人組 | 2. 座 | 3. 惣 | 4. 株仲間 |
|--------|------|------|--------|

問3 室町時代、足利義満の保護を受けた観阿弥・世阿弥親子によって「能」が大成されましたが、その能の合間に演じられた、当時の庶民の生活や感情を滑稽に描き出した伝統芸能を何といいますか。

(2018年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|-------|-------|----------|
| 1. 歌舞伎 | 2. 落語 | 3. 狂言 | 4. 人形浄瑠璃 |
|--------|-------|-------|----------|

問4 室町時代に、猿楽などの伝統的な芸能を基にして観阿弥・世阿弥の親子によって大成され、当時の将軍などの武士にも重んじられた伝統芸能を選んでください。

(2023年 宮城県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|--------|--------|------|
| 1. 川柳 | 2. 浮世絵 | 3. 歌舞伎 | 4. 能 |
|-------|--------|--------|------|

問5 京都の祇園祭が、中世から現代まで続く伝統的な行事として維持されてきた背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。

(2018年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 江戸時代に入ってから、徳川将軍家が京都の町衆の力を抑えるために、幕府主導の行事として祭礼の内容を一新させた。 | 2. 応仁の乱の後、幕府の統治能力が低下した京都で、町衆と呼ばれた商工業者らが自治組織を作って祭礼の運営を主導した。 | 3. 鎌倉時代に幕府が京都に六波羅探題を置いたことで、武士が商工業者を厳しく統制し、計画的に大規模な祭礼を挙行させた。 | 4. 足利義政が銀閣を建立した東山文化の時期に、幕府が資金をすべて負担することで、公家や僧侶のための行事として再興された。 |
|---|--|---|---|

問6 後醍醐天皇による建武の新政に反旗を翻し、1338年に光明天皇から征夷大将軍に任命されて、京都に武家政権である室町幕府を開いた人物は誰ですか。

(2018年 秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| 1. 足利義政 | 2. 源頼朝 | 3. 足利尊氏 | 4. 足利義満 |
|---------|--------|---------|---------|

問7 室町時代、現在の石川県にあたる地域において、浄土真宗（一向宗）の信仰で結びついた武士や農民が守護大名の富樫氏を倒し、約100年にわたって行った政治体制を何と呼びますか。

(2018年 奈良県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|-----------|------------|-----------|
| 1. 島原・天草一揆 | 2. 山城の国一揆 | 3. 加賀の一向一揆 | 4. 正長の土一揆 |
|------------|-----------|------------|-----------|

問8 室町時代に行われた日明貿易（勘合貿易）において、日本が明から生糸や絹織物とともに大量に輸入したものは何ですか。当時の日本国内では貨幣経済が発展しており、その取引に欠かせないものとして受け入れられたものを次から選びなさい。

(2020年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 1. 銅銭 | 2. 硫黄 | 3. 金 | 4. 刀剣 |
|-------|-------|------|-------|

問9 15世紀後半、8代将軍足利義政の継嗣問題や、有力な守護大名である細川氏と山名氏の対立などを背景に京都で始まり、以後11年にわたって続いた戦乱は何か、最も適切なものを選びなさい。

(2021年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 平治の乱 | 2. 壬申の乱 | 3. 応仁の乱 | 4. 保元の乱 |
|---------|---------|---------|---------|

問10 鎌倉時代から室町時代にかけての日本国内における貨幣の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。

(類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|--|---|---|
| 1. 政府が和同開珎などの銅銭を国内で铸造し、全国的な流通を強く促した。 | 2. 貨幣の代わりとして、各藩が発行した独自の紙幣である藩札が広く一般的に使われた。 | 3. 中国の宋や明から貿易によって大量に輸入された銅銭が、主な通貨として流通した。 | 4. 江戸幕府によって铸造された慶長小判などの金貨が、全国の市場で中心的な役割を果たした。 |
|--------------------------------------|--|---|---|

問11 1467年に京都で発生し、約11年にわたって続いた応仁の乱の背景と性質を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。

(2019年 新潟県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 室町幕府の将軍のあとつぎ争いに、有力な守護大名である細川氏と山名氏の対立が結びついた争い | 2. 江戸幕府が有力な大名を統制するために、武家諸法度を制定したことによって反発して起きた争い | 3. 聖武天皇が仏教の力で国を守ろうとして、全国に国分寺を建立したことに対する地方豪族の反乱 | 4. 足利義満が北山に金閣を建立した際、重い税を課せられた農民たちが各地で一斉に起こした土一揆 |
|---|---|--|---|

問12 足利義満が行った対外政策と、その背景にある当時の情勢について述べた説明として、正しいものはどれですか。

(2023年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 南北朝の合一によって国内を安定させた後、幕府の財政を強化するために明と国交を結んだ。 | 2. 鎌倉幕府を滅ぼすことに協力した功績を背景に、モンゴルの襲来を防ぐ目的で明と軍事同盟を結んだ。 | 3. 応仁の乱による京都の荒廃を防ぐため、明から輸入した銅銭を京都の復興資金に充てた。 | 4. 織田信長の協力を得て将軍に就任した後、キリスト教の布教を認める代わりに明との貿易を拡大した。 |
|---|---|---|---|

問13 琉球王国が、自国の資源が限られているにもかかわらず、中継貿易によって大きな富を築くことができた背景として最も適切な説明はどれですか。

(2024年 鳥取県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 日本と中国の間に位置する立地を活かし、自国で生産した大量の銀を両国に直接輸出する独占権を持っていたため。 | 2. 中国から輸入した茶や薬を、加工して全く別の製品に変えてから日本へ売るという工業化に成功したため。 | 3. 日本政府から貿易の全権を委託され、中国との直接貿易を禁止された日本の商人の代わりにすべての品物を運んだため。 | 4. 中国の生糸や薬を日本へ、日本の銀や海産物を中国へといったように、周辺国の需要に応じた物資を運ぶ役割を担ったため。 |
|---|---|---|---|

問14 後醍醐天皇が吉野（奈良県）へ逃れて南朝を立て、京都の北朝と対立した「南北朝の動乱」の時期の社会情勢を説明したものとして適切なものはどれですか。

(2017年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 長期にわたる戦乱の中で、各地の守護が領国支配を強める一方で、農民も惣を結成して自衛を行うなど社会が大きく変化した。 | 2. 平氏による一門独裁への不満が高まり、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて全国に守護・地頭を派遣し始めた。 | 3. 徳川氏による安定した治世が確立され、参勤交代の制度によって地方の武士が江戸に集住し、平和な都市文化が発展した。 | 4. 中央集権的な律令制度が再び強化され、すべての土地と人民を天皇が直接支配する公地公民の原則が全国で徹底された。 |
|--|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 足利義満	足利義満は室町幕府の権力を確立させた將軍です。南朝と北朝の合体を達成したことで、幕府による全国的な支配体制を盤石なものにしました。また、金閣を建立するなど文化的な側面でも大きな足跡を残しています。
問2	答え 3 惣	室町時代の村落では、農民が自立性を高め、有力な農民を中心に「惣（惣村）」と呼ばれる自治組織が作られました。惣では「寄合」という会議が開かれ、村独自のルールである「掟」を定めたり、共同作業の調整を行ったりしました。選択肢にある「座」は中世の商工業者の同業者組合、「五人組」は江戸時代の連帯責任制度、「株仲間」は江戸時代の特権的な商人の組合を指します。
問3	答え 3 狂言	室町時代には、足利義満の保護を受けた観阿弥・世阿弥親子によって「能」が完成されました。この能の公演の中で、劇の合間に演じられたのが「狂言」です。格調高く、武士などの精神性を重んじた能とは対照的に、狂言は当時の庶民の日常生活や失敗談などをユーモアたっぷりに描いた喜劇である点が大きな特徴です。
問4	答え 4 能	観阿弥・世阿弥によって大成された「能」は、三代將軍の足利義満などの厚い保護を受けて発展しました。滑稽な対話劇である「狂言」とともに演じられ、これらを総称して「能楽」と呼ばれることもあります。歌舞伎や浮世絵、川柳は江戸時代に発展した町人文化の代表例です。
問5	答え 2 応仁の乱の後、幕府の統治能力が低下した京都で、町衆と呼ばれた商工業者らが自治組織を作って祭礼の運営を主導した。	1467年に始まった応仁の乱により京都は焦土と化しましたが、幕府には都市を復興させる十分な力が残っていませんでした。これに対し、京都の商工業者である町衆は、自らの手で街を守り、運営する「自治」の仕組みを築きました。祇園祭の復興はその自治の象徴であり、自分たちの文化を維持しようとする町衆の強い意志と経済力によって支えられました。他の選択肢にある武士や幕府主導による復興という説明は誤りです。
問6	答え 3 足利尊氏	鎌倉幕府を滅ぼす際に貢献しましたが、その後の後醍醐天皇による公家を重視した政治に武士たちが不満を抱いたため、それらの武士をまとめて独自の政権を樹立しました。これが室町幕府の始まりです。
問7	答え 3 加賀の一向一揆	加賀国（現在の石川県）では、一向宗の門徒たちが団結して守護大名を追放し、自分たちで領国を運営する自治を実現しました。この状態は「百姓の持ちたる国」とも評され、織田信長によって平定されるまで長期間続いた点が大きな特徴です。
問8	答え 1 銅銭	室町時代の日明貿易では、日本は明から生糸や絹織物のほかに、大量の銅銭を輸入しました。当時の日本は自ら貨幣を鑄造していなかったため、明から輸入された永楽通宝などの銅銭が国内の流通貨幣として広く使われ、貨幣経済の発展を支えました。選択肢にある金、硫黄、刀剣は、日本から明へ輸出された主な品目です。
問9	答え 3 応仁の乱	1467年に発生したこの内乱は、足利義政の後継者を巡る争いに、幕府の有力者であった細川勝元と山名宗全の権力争いが結びついたものです。戦いの舞台となった京都は壊滅的な被害を受け、幕府の支配力は大きく低下することとなりました。
問10	答え 3 中国の宋や明から貿易によって大量に輸入された銅銭が、主な通貨として流通した。	日本では10世紀後半から自国での貨幣鑄造が途絶えていましたが、中世に入り商業や貿易が活発化すると貨幣の需要が高まりました。そのため、日宋貿易や日明貿易を通じて中国から宋銭や明銭を輸入し、それらが国内で広く利用されるようになりました。
問11	答え 1 室町幕府の將軍のあとつぎ争いに、有力な守護大名である細川氏と山名氏の対立が結びついた争い	8代將軍足利義政のあとつぎ問題をきっかけに、幕府の権力を握ろうとする有力な守護大名の細川勝元（東軍）と山名宗全（西軍）が激しく対立したことで乱が始まりました。この戦いは京都を焼け野原にただけでなく、幕府の権威を失墜させ、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まる戦国時代の幕開けとなりました。
問12	答え 1 南北朝の合一によって国内を安定させた後、幕府の財政を強化するために明と国交を結んだ。	足利義満は、14世紀末に長年続いた南北朝の対立を解消して国内を統一し、將軍の権威を高めました。その強力な権力背景をもとに、それまで非公式であった明との関係を正式な国交へと発展させ、貿易による経済的利益を独占して幕府の財政基盤を揺るぎないものにしました。他の選択肢は、足利尊氏、足利義政、足利義昭の事績や時代背景と混同させたものです。
問13	答え 4 中国の生糸や葉を日本へ、日本の銀や海産物を中国へといったように、周辺国の需要に応じた物資を運ぶ役割を担ったため。	琉球王国は、中国（明）との間で朝貢貿易を行いつつ、その関係を維持することで得た中国製品を日本へ転売しました。同時に、日本で産出された銀などは中国で高く評価されていたため、これらを仲介することで、国家の経済基盤を確立することができました。
問14	答え 1 長期にわたる戦乱の中で、各地の守護が領国支配を強める一方で、農民も惣を結成して自衛を行うなど社会が大きく変化した。	約60年に及ぶ南北朝の動乱期には、軍事指揮権を持つ「守護」が、その地域の武士を家臣化して領国支配を強める「守護大名」へと成長していきました。同時に、絶え間ない戦火から自分たちの生活を守るため、農民たちが「惣」を作って団結するなど、身分の上下が入れ替わる「下剋上」の風潮とも結びつく社会の構造変化が起きました。